

# 海の生き物観察力向上講座 開催しました！



- 日時 令和元年7月13日（日）12：00～16：00
- 会場 箱浦ビジターセンター 仁老浜海岸
- 講師 大阪市立自然史博物館外来研究員 大谷 道夫 氏

7月13日（日）箱浦ビジターハウス・仁老浜海岸にて、海の生き物観察力向上講座を開催しました。6月15日（土）荒天の為中止になった本講座の延期開催となりました。

本日は西日本放送・FM香川様の取材も入りました。初めに箱浦ビジターハウスにて座学を行いました。香川県水産試験場の松岡主席研究員もアドバイザーとして参加していただきました。

本日の講師大谷氏より、配布資料を見ながら「磯とは何か」「潮間帯別の瀬戸内海で見られる生物」「磯に住む危険な生物」「フジツボの見分け方」など、具体的な画像や解説を交えてご説明していただきました。

質問コーナーでは「近年、瀬戸内海で潮干狩りに行ってもアサリが取れないのはなぜか」「なぜ磯でみられる生物にエリア別の違いが生まれるのか」といった質問が上がりました。講師からは様々な理由の一つとして、塩分濃度の違いにより分布に差が出るとの解説がありました。



座学の後は、車で5分の場所に位置する「仁老浜海岸」へ移動し、生き物採取の実習を行いました。

あいにく小雨の天気でしたが、現地では、講師の解説も交えながら参加者は生き物採取に熱中していました。採取した生き物はプラスチックの容器に移して、講座の最後に講師による解説が行われました。

潮位の関係上種類は多く採取できなかったものの、普段じっくりとは観察できない生き物がたくさん採取出来ました。



採取した生物の中には「ヒトデ」「岩ガキ」「巻き貝」「カイメン」「カニ」など、座学で学んだ生物を実際に手にして講師の解説を聞いた参加者からは、「実習の時間が多く専門的な知識を学べて有意義だった」等の声が上がりました。